**＜論文要旨＞**

**組織の有効性と信頼に関する実証研究**

**王　艶梅**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　江蘇理工学院　外国語学部

組織の有効性に関しては様々な観点から研究が行われ、多様なアプローチやモデルが提示されている。しかし、これまでの研究では信頼の観点からの分析が殆ど行われていない。信頼は組織の成立に必要なコミュニケーションの前提であり、協働体系の形成や不確実性の削減に関係し、組織の有効性に大きな影響を及ぼしている。信頼を失うことで組織が倒産したりするならば、組織の有効性をより正確に捉えるには信頼を取り入れる必要がある。

そこで、本稿は、まず有効性と信頼の関係を理論的に考察した上、有効性の信頼モデルを提示し、次に仮説を設定して、アンケート調査の結果分析によって、このモデルの妥当性を検証した。結果、信頼と有効性が正の相関関係にあり、信頼が高ければ高いほど、有効性は高くなるという仮説が支持された。このことから信頼が有効性と関連し、有効性の信頼モデルの妥当性が証明された。

（江蘇理工学院社科基金項目KYY16514）